

輝け、五城目びと



他校と力を合わせ
勝利を目指す!

五城目野球 スポーツ少年団

部員不足の影響により、昨年8月から、井川スポーツ少年団との合同チームを組む五城目野球スポーツ少年団。小学4年生から6年生で全13人という少ない部員数ながら、「どの打順からでも点を取れる打撃力と機動力」を最大の武器に、各大会で躍進しています。

五城目井川合同チームは、普段から試合本番を意識した練習を行っているとのこと。試合数をこなすにつれて守備力も向上し、現在では投打にわたりバランスの良いチームに成長したと、監督の□□□□さん(野田)は語ります。

今年6月に出場した「マクドナルド杯」県予選では、南秋地区大会において優勝し、全県大会出

場を果たしました。全県大会では、持ち前の打撃力を存分に発揮し、初戦の合川に10対0で快勝。準々決勝での旭栄との試合では、3対1で惜敗するも、昨年の成績を越すベスト8入りを果たしました。

主将の□□□□さん(五城目小6年)は、「野球を通じて、最高の仲間をはじめ様々な人と出会うことができ、たくさん思い出ができた」と話していました。また、監督の伊藤さんは、「子どもたちには、普段からあいさつや返事はもちろん、親や応援してくれる方への感謝の気持ちを忘れないよう指導してきた。6年間、子どもたちと野球ができて幸せな時間だった」と話していました。

町施設を管理する 「指定管理者」を公募します

▶公募施設

町地域活性化支援センター
(五城目町馬場目字蓬内台117番地1)

▶管理期間

令和6年4月1日～
令和11年3月31日

▶公募期間

9月29日(金)まで

申・関 町まちづくり課
(☎852・5361)



がんばる人に (敬称略)

- ◆ 県中学校総合体育大会
 - ▶ 優勝 伊藤 潤雅 (五城目一中3年)
- ◆ 県中学校総合体育大会
 - ▶ 陸上競技 男子共通400m
 - ▶ 3位 久米 悠斗 (五城目一中3年)
- ◆ 全県少年野球大会
 - ▶ 準優勝 羽城・五城目一中 野球部
- ◆ 中学校通信陸上競技大会
 - ▶ 男子共通400m
 - ▶ 3位 久米 悠斗 (五城目一中3年)
- ◆ 赤い羽根共同募金運動キャッチコピー
 - ▶ 優秀賞 近野 莉琴 (五城目一中3年)
- ◆ 東北中学校柔道大会
 - ▶ 優勝 伊藤 潤雅 (五城目一中3年)

7・8月 羽城・五城目一 全県少年野球大会・東北中学校野球大会で躍進

部員不足により、今年4月から羽城中学校との合同チーム(羽城・五城目一)として新体制をスタートさせた五城目第一中学校野球部は、7月から8月にかけて行われた全県大会・東北大会で、大きな躍進を見せました。

羽城・五城目一は、7月24日に開幕した「第89回全県少年野球大会」の初戦で、山王に6対1で勝利。その後も、安定した投手陣と粘り強い打撃を武器に、決勝まで駒を進めました。28日に行われた大曲との決勝戦では、惜しくも6対1で敗れたものの、東北大会出場の切符をつかみました。

8月5日に開幕した「第52回東北中学校野球大会」では、宮城県代表の山元との初戦に3対0で勝利。翌日に行われた、青森代表の板柳との試合では、1対0で惜敗し全国大会出場を逃しましたが、11人という少ない部員ながら東北8強入りを果たしました。



大曲中学校との試合後、羽城中学校の選手と並び記念撮影をする五城目第一中学校の3人。

8月9日 畠山凱さんがインターハイ柔道で 団体・個人ともに優勝

8月9日、「全国高校総体(インターハイ)柔道競技大会」の男子団体決勝戦が行われ、本町出身の畠山凱さん(3年)が主将を務める国士舘高校(東京都)が、東海大相模高校(神奈川県)を下し、見事優勝を飾りました。畠山さんは、同大会の個人戦(100kg超級)でも優勝を収めています。

国士舘高校は、本年3月の「第45回全国高等学校柔道選手権大会」および7月の「令和5年度金鷲旗高校柔道大会」でも団体優勝を果たしており、今回のインターハイで優勝したことで3冠を達成しました。

インターハイでの団体戦について、畠山さんは「プレッシャーのかかる大将戦だったが、もうやるしかないという気持ちで臨んだ。皆が、今持っている力を出し切ったことが、自分たちの勝利につながったと思う」と話していました。



団体戦で東海大相模の選手と戦った畠山さん。見事勝利し、同大会2連覇を達成しました。

8月15日 責任ある大人としての自覚を誓う 二十歳のつどい

8月15日、五城目小学校階段教室で「二十歳のつどい」が行われ、本年度の対象者58人のうち、50人が出席しました。

つどいでは、渡邊町長が「それぞれが志し、これまで歩まれてきた道、成長を振り返っていただき、これからの夢や希望、挑戦に向かっていってほしい」と述べました。その後、五城目第一中学校の恩師の京谷明仁先生、畠山紀彦先生の2人がスピーチを行いました。

最後に、出席者を代表して、□□□□さんと□□□□さんが「無事この日を迎えられたのも、地域の皆さまや、これまで育ててくれた家族のおかげと心から感謝しております。一つ一つの発言や行動に責任をもち、ひとりの大人として、生まれ育った五城目町や社会に貢献できるよう精進したい」と、誓いの言葉を述べました。



渡邊町長を前に、誓いのことばを述べる□□さん(左)と□□さん(右)。